

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		にじいろキッズらいふ若里東				公表日	令和8年3月26日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達の体格が大きくなってきて狭さを感じるが廊下なども活用しながら支援に当たっている。 ・支援に不適切なものがスペースを邪魔していない。 ・グループを分けて活動を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動スペースは問題ないが、クールダウンスペースは工夫して取り入れるしかない。 ・児童発達と放課後等デイサービスが共存している場合は施設や備品の共有方法に工夫が必要である。 	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	5		<ul style="list-style-type: none"> ・特性によりその日の配置数は違うと思う。 ・一対一対応のお子さんもいるので手が足りない。 ・書類上配置すべき職員配置にすることで、人が多いだけとなっていることもある。「人手があるから充実した支援ができる」かと言うとそうでもないように感じる。 ・現行での法制度上仕方がないと妥協せざるを得ないのが現状。 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・マットやパーテーションなどを使いわかりやすくしている。 ・お子さんの活動部屋や活動スペースがお子さんにわかりやすく構造化されている。 ・おもちゃをホワイトボードに実物写真で貼って選ばせているのは工夫されていると思う。 ・職員間の情報共有が年度当初に綿密に行われ、かつ適宜にも行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見える支援」グッズが細かく配置されていますが、その職員側の努力が「限られた時間の中での活動に追われ」見えづらくなり、子ども達の安心にまで届いているかなと思います。 ・環境的には構造化されているようにも思うが、その中でもより工夫し構造化を図る必要がある。 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・活動別に部屋を分けている。 ・使う物、場所によって消毒を変えたり壁など手が触れる場所も消毒している。掃除機とモップがけをおこない裸足でも良いようにしている。 ・部屋や器具の掃除や消毒がおこなえている。 ・子どもの特性や遊びに応じて部屋を変える工夫がされている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動するには少しせまいと思う気持ちもありますが、なら広いスペースを用意してあげればよいのかどうかは、お子さんの内部の環境によると思うので、わかりません。 ・バツと見は綺麗だが、汚れが目立つ箇所もあるので、「気づいた時に」ではなく定期的な清掃の機会が必要である。 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2	<ul style="list-style-type: none"> ・iPad、宿題はこの部屋ですと分けている。 ・限られた空間の中で、できるだけ配慮努力はあると思います。 ・カーテンやパーテーションなどで個別のスペースを確保している。 ・静かな場所にいたいお子さんがいられる環境はあると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状の環境下においてどのように個別スペースを作るべきか議論する必要がある。 ・仕切りを用いたりの工夫は行なっているが、空間の狭さによる限界を感じることもある。 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定を理解し、目標設定を意識し振り返りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時職員側からもできる限り把握しようとする姿勢が大切だと思います。 ・分かりません。 ・職員、従業員が一同を介して話し合う機会はあるが、その場をうまく生かすきれない。 	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	2		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け評価表についての話を聞く機会がない。 ・わからない。 ・保護者のご意向は何っているが、それが業務改善に結びついているかどうかはわからない。 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	3	<ul style="list-style-type: none"> ・所長、専門職の先生方の配慮により職員全体の「意見交換会」（意見発表会）は設けていただいていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改善に繋がるには、共通の支援を自分の立ち位置でおこなうことと思います。 ・話をする機会がありません。 ・わからない。 ・すべてにおいてレスポンスが悪く、業務改善に至るまで時間がかかりすぎる。 	

	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9	0	・今年度、実施している。	・外部評価について知る機会がない。 ・第三者評価の結果がわからない。 ・外部評価は行っていただいているはずであるが、恐らく現場支援は視察してもらっていないのでは？抜き打ちで視察していただきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	・研修が開催されている。	・年2回研修はあるが、職員や従業員に汎化されていないように感じる。児発管によるフィードバックを強化すべきか、より現場職員がわかりやすい研修に内容を変えるべきなのか議論の余地あり。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	・支援記録の記入時に確認できるようになっている。	・書類上公表することが義務付けられているから公表しているが、現場支援とプログラムは乖離しているように感じる。また、従業員への提示ができていないのが現状で、それを理解した上で全員が業務できるかと言うと正直わからない。
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	1	・活動の内容や支援が個々のアセスメントを意識して取り組んでいる。	・作成はしているが、現状「できないことをできるようにしよう」という計画となってしまう。既存の計画の概念を一度改め、利用児童の意欲や願いを重点とした支援計画の作成例を発見管が作成する必要がある。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1		・臨時職員が、直接作成に加わることはなくとも、日々の支援の関わりの中で、お子さんの可能性を見つけていくことで、間接的に作成に加わっていきけると思います。 ・共通理解を検討する機会が適宜につくれていない。 ・職員が作成したものをただ従業員に下ろしているだけ。そもそも支援計画自体が監査対策でしかない存在である。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	・計画がどのぐらい達成されているか意識した活動内容や支援になっている。	・当事業所だけの問題ではなく、計画と支援が乖離してしまう現状。
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	・事業所以外でのお子さんの状況を把握する努力がされている。	・職員の気質、生き方で子どもに対する見方がすべて変わってしまう。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	2		・放課後等デイサービスが「本人支援」がメインになってしまい他の支援を意識する機会が少ない。 ・支援=直す、が定着し過ぎているように感じる。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	1	・個々のお子さんの発達状況に応じて立案されている。	・立案されたプログラムに忠実に支援できたら、「チームで行っている」と言えると思います。 ・現場職員にお任せしすぎてしまっており、現場職員の負担が大きい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	・季節に沿ったプログラムや、個々の発達に沿ったプログラムになっている。 ・子どもの特性により、グループ分けや個別の課題等を変えている。	・現場職員はとても頑張っている。逆に負担が大きいように感じる。
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	・個別から集団に移行できるよう職員が適宜に関わり支援している。	・集団、個別の期間を決められるといいかと思う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9	0	・支援内容だけではなく、他の曜日に来た時の様子や前回の活動での様子を支援前に共有している。 ・支援の内容や役割分担を職員間で共有しフォローしあっている。	・役割分担の確認は、細かく提示されたいです。いざ現場で、となると、「臨機応変な対応」に溢れていますので、職員間の信頼関係が大切だと思います。 ・打ち合わせはしているが、全員がその議論内容で理解できるかわからない。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	・臨時職員は時間が限られていますので「振り返り」までいかなくとも、帰り際の何気ない会話の中で、心にメモされます。	・臨時職員間で支援の振り返りなど共有する機会はあるが、全職員でおこなう機会が少ない。 ・現状毎回その場は作れていない。振り返り=ダメ出し、と言ったイメージを払拭し、活発な議論となるようにしたい。	

	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	・個別の支援計画を意識した記入になっている。	・記録している現場としていない現場があるのが現状。ただ、記録すること自体はやはり負担が大きい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0		・適宜な見直しについて話を聞く機会がない。 ・義務なので書類としては規定の期間で行っているが、日々モニタリングするべきだとは思う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	2		・家族支援、移行支援、地域支援についての情報を知る機会がない。 ・ガイドラインの存在を従業員が知らないのでは？
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	1	・支援の先回りをしていない。選択数を工夫している。 ・個の特性や発達に応じた自己選択の方法を支援計画に立案し、実施している。	・例えば、「2つ（狭い）の選択肢を提示して、どちらかに決めてもらう」ことが、自己選択力、自己決定力を育てることになっているのか、わかりません…。でも、お子さんのタイプによって、限られた選択肢の中でも、「決定できた」事が、安心や自信に結びつくとしたら…むしろ嬉しいです。 ・利用児童に選択してもらう機会を設けることが増えてきたが、果たして何を持って自己決定というのかは議論が必要。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	・児童発達支援管理責任者が参加している。	・適切な参加者が参加しているが、保護者にどう伝えるべきなのかそれぞれが苦慮しているように思う。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	・関係機関の支援会議がある。	・連携しているが、書類上連携しているだけのように感じる。大きな病院が近くにあるのは利点である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	1		・学校側のコアタイム、事業所側のコアタイムが違うこともあり、積極的な連絡調整が難しい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	1		・情報共有をされているが知る機会があまりない。 ・児童発達が敷地内にあることは利点だが、積極的な情報共有ができていないのが現状。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	2		・卒業後の様子を知ることができない。 ・必要に応じて、障害福祉サービスへの移行後も介入できると良いように感じる。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	2		・情報がない。 ・わからない。 ・スーパーバイズや助言を受けることで、職員がプラスにとらえられると良い。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	7	・交流はしていないが、支援会議等での情報共有は行われている。	・大きな交流会が開催されているのかはわかりませんが、若里東で色んな学校、色んな子ども達と一緒に過ごし成長できることも、ひとつの交流なのかなと思います。 ・交流の機会を模索する。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	6	3		・わからない。 ・参加して何か変わったかどうかはわからない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	・保護者と支援計画について話しをする機会がある。 ・共通理解だけでなく保護者の労をねぎらう。 ・帰りの際に、その日の状況を伝えている。	・共通理解とは程遠いように感じる。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	2	・情報提供を積極的におこなう。	・わからない。 ・家族の方がよほど勉強しているのではないかと感じる。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	1	・個々に伝えている。	・丁寧なようで丁寧ではないことが多いように感じる。	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	1	・個々に伝えている。	・わからない。 ・子どもの意思の尊重は大切だが、どうやって汲み取ればいいのかわからない。また、子どもの意思を尊重する=言いなり、と感じている職員も多い。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	9	0	・個々に伝えている。	・ご家族としては、「文章が多すぎて読むのも面倒だ」と思っているように感じる。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	1	・心理士に繋げる助言。	・面談は行っているが、面談を行う職員などによって回答が違いため面談をする価値がない場合もある。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6		・年1回でも集まれる場を提供できるというのではないかと思われる。 ・情報提供を積極的におこなう。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1	・情報を職員間で共有する。	・大事故でない限りそういった対応はしていない。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9	0	・お便りをだしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	1		・個人情報が入った書類の扱いが雑。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	1	・言語以外から伝わってくる情報に敏感になる。	・「言えばわかる」が浸透しすぎている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3		・地域に理解を求める。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	1	・避難訓練をおこなっている。	・マニュアルと実際の事故が結びつかない。事故が起こってみたいとわからないのが現状。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	2	・常勤職員の研修がおこなわれた。	・計画と災害が結びつかない。結局、災害が起こってから考えると思われる。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8	0	・服薬について職員間で共有している。	・てんかんや発作があることは把握しているが、実際の様子をほぼ把握していないため何が発作なのかほとんどの職員が知らない。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	3	・医師の指示書までの提出はないがアレルギーのお子さんに対しては調理活動の前には材料など伝え確認をしている。 ・職員間で共有されている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1	・危険な物を職員室にしまう。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	2	・個々に伝えている。	・引き渡し訓練など必要ではないかと思われる。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1	・再発防止を職員間で共有している。 ・ヒヤリハットの回覧がしっかりされている。	・ヒヤリハットの提出自体、職員にとって罰でしかない。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1		・指導と虐待の境目が微妙。 ・手を出すことはいけないと全員思っているが、接し方、言葉遣いなども虐待につながることを理解していない人が多い。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1		・話題にあげるようにする。 ・身体拘束の定義が意味不明。	